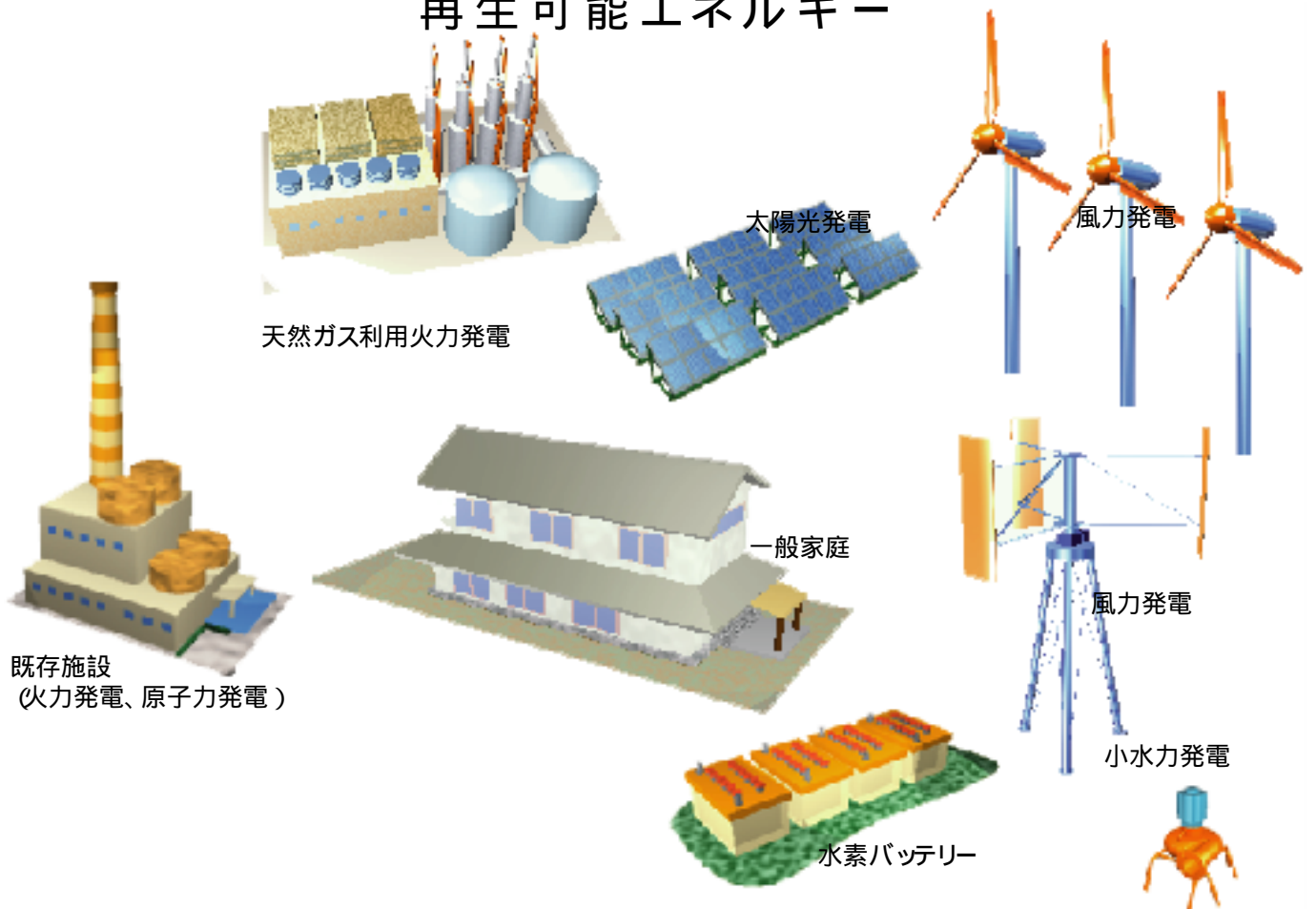


# 再生可能エネルギー



再生可能エネルギー (Renewable Energy) は次世代に受け継がれるべきエネルギーという意味を持っています。地球を大切に、日本を大切に、あなたの町を大切に、あなたの家族を大切に、そんな願いが込められています。

1978年には米国でPURPA法 (Public Utility Regulatory Policy Act of 1978) が米国の輸入石油依存度低減、代替エネルギーおよび再生可能エネルギー開発を目的として制定され、1992年にはEnergy Policy Actの制定などから、さらに、電力業界の自由化が進められてきました。

そのような中で単価的に安い電れることがないようにする支援策が検討され始めました。さまざまな支援策の中でも電力消費者のニーズの有無がもっとも重要なポイントとなっています。

つまり、電力消費者である私達が地球環境負荷の少ない再生可能エネルギーで作りだした電力を選択したいという意思表示をする必要があります。

まず、私達が再生可能エネルギーの導入に関心を持つことが第一歩なのです。

## 再生可能エネルギー

- 風力：** 近い将来にも、風力タービンの生産技術向上によって、化石燃料に対向する競争力を持つと期待されている。
- 太陽光：** 製造単価が大きな障壁となっている。製造開発支援や消費者導入支援がされているが大電力化に難がある。
- 太陽熱：** 小型の携帯用の湯沸かし器から超大型設備によるタービン発電所まで化石燃料に対向できるような設備が開発可能である
- バイオ：** バイオマス廃棄物や作物を利用してガス化燃料を利用して発電するシステムで、現在の石炭燃料利用設備の利用が考えられている。

- 地熱：** 地熱および蒸気を利用して発電する設備で技術向上で大きなエネルギーを利用できる可能性を秘めている。
- 水素：** 水素を利用したプロトン交換膜燃料電池の開発や化石燃料からの水素生産技術開発で実用化が望まれている。
- 水力：** 現在のようなダム式の水力発電は水利権が増大してきた今日ではその数を増やすことは困難視されている。今後は低落差式開発が望まれている。日本では比較的小さな小水力発電の可能性が高く、小水力発電機器の開発が期待されている。